



カンボジアの子どもたちに教育を

2005年10月 No. 15

カンボジアNGO ポンロック・タマイ ディレクター ポット・リティ氏来日

9月17日、ポット・リティさんを招いてスタッフ・ミーティングをおこないました。リティさんは、当基金が5月からアジア未来学校の運営を委託しているカンボジアのNGO、ポンロック・タマイのディレクターです。4月までカンボジア事務局長であった安田と共に、学校開設の準備段階からすでに3年間にわたってアジア未来学校の運営に携わってきました。今回来日したのは、わたしたち基金のスタッフと一緒に今後のアジア未来学校の方向について話し合うためでした。

リティさんの話によると、アンロンコン・タマイ村の子どもたちのようすは徐々に変わりつつあります。それは、外国のNGO団体が、わたしたちも支援している公立のルセイサン小学校へ児童が通うように、小学校に行った子どもにお金をあてるプロジェクトを開始したからです。実際はすべての子どもにお金があたえられるわけではなく、一部の選ばれた子どもたちだけにのみ支援があるようです。けれどもこのために、アジア未来学校の生徒も、かなり大勢ルセイサン小学校へ行きはじめました。

リティさん、およびアジア未来学校の先生たちはこの状況に対して、しばらく様子を見ることにしています。リティさんは、教育とは、お金をもらえるから学校に行くというものではなく、子どもたちが学ぶこと自体に価値があるという信念を持っています。わたしたち基金のスタッフもリティさんの意見に賛成し、より多くの子どもたちが学ぶことの楽しさを感じることができるよう、アジア未来学校の様子を見守っていこうと思います。

今回のミーティングで、日韓アジア基金の財政状況、およびアジア未来学校の現状についてリティさんを含めスタッフ全員で認識を共有し、改めてアジア未来学校を共に盛り上げていこうと決意しました。今後も日韓アジア基金およびポンロック・タマイは互いに協力して、多くの子どもたちにとっての「学びの滑走路」という役割を果たせるように取り組んでいきたいと思っています。(菊池)

～目次～

ポット・リティ氏来日	1
討論会「どうする？日韓アジア基金のこれから」	2
日本を訪問して感じたこと・いま未来学校で起こっていること	4
日本支部を訪ねて	5
ABKフェスティバル	6
グローバルフェスタ	
スタッフ紹介	7
宝物	8
会計報告	9
事務連絡	10

討論会「どうする？日韓アジア基金のこれから」

さる9月18日の年次総会の後に、討論会を実施しました。これは現状の説明をおこなった総会の延長線上に位置するもので、「今後の日韓アジア基金はどのような活動をおこなっていくべきか」について参加者同士が忌憚なく意見を交わしました。以下に詳細をご報告します。

日時 2005年9月18日(日) 14:00～17:00

会場 アジア文化会館 101 教室

プログラム I部 講演「カンボジアにおける取り組みと課題」

ポット・リティ氏 ポンロック・タマイ ディレクター

高橋久夫氏 シャンティ国際ボランティア会(略称SVA)

広報課課長

II部 全体ディスカッション

「今後、日韓アジア基金はどのような活動を行うべきか」

【イ・ジェウ氏挨拶】韓国事務局の現状について

討論会に先立ち、韓国支部スタッフのイ・ジェウ氏に、現状把握の一環として、韓国事務局の現状について説明していただいた。財政的にも人員的にも厳しいと言わざるをえないようだ。しかしその一方で「ウ代表が韓国に帰ってきたら韓国事務局も再度活性化させ、日本スタッフと同様にがんばります」と、力強い言葉も受け取った。

リティ氏にとってはもちろん、われわれにとっても韓国の現状を直接スタッフの口から聞く機会は貴重な。みな熱心にかれのひとことひとことに耳を傾けていた。



イ・ジェウ氏

【I部】

リティ氏、高橋氏の順で講演が行われた。

まずリティ氏が昨今のアンロンコン・タマイ村の状況を報告する。それによると、われわれ以外にも3つのNGOが活動をはじめたという。それによってアジア未来学校の子どもたちを取り巻く環境にも変化が生じている(詳細は17日のミーティング報告参照)。こうした現状に加え、総会で示されたような限られた予算に少ない人手。その中で日韓アジア基金は今後どのような方針で活動をしていくべきなのだろうか。

この問いに対し、ひとつの参考になればとの考えで、SVAの高橋氏に活動の紹介をしていただいた。SVAは



ポット・リティ氏

約 15 年前からカンボジアで教育支援活動をしている NGO で、いわばわれわれの大先輩にあたる。かれらの具体的な活動は①図書館事業②学校建設事業③伝統文化事業の 3 本柱からなるが、今回は特に①に焦点をあてて話していただいた。



高橋 久夫氏

【Ⅱ部】

高橋氏の話した図書館事業に対し、リティ氏を含め参加者は大変興味を惹かれたようだ。このような事業をアジア未来学校にも導入できないか、という話にしばし花が咲いた。

しかし議論が広がるにつれ、目的を失い、どのようにして導入するか？という小手先の部分に視線が注がれがちになる。何のための図書館事業なのか。このことを常に念頭に置かなくてはならない。

そこでスポットライトがあてられたのが、「識字能力の維持」という観点であった。現在、日本では当然のように文字に囲まれて生活している。新聞も本も無い家庭はまずないだろう。だがカンボジアではどうか。たとえ学校で文字を習って読めるようになったとしても、その能力を発揮する場がないのだ。これはリティ氏によるとアジア未来学校の周辺でも例外ではないという。それを何とか解決できないものか。これに対して「謄写版の導入」という具体的な案も提示された。また小学校での教科書不足を問題視する声も上がった。

全体を通してひとつの結論を出すというまでには至らなかった。しかし、私は一定の論点を洗い出すことには成功したと見ている。カンボジアという「大きな」フィールドで日韓アジア基金という「小さな」団体は何をどうすべきなのか。これからも、絶えず自らに投げかけていかなければならない問いである。

(細谷)



出席者一同

日本を訪問して感じたこと いま未来学校で起こっていること

ポンロック・タマイ ディレクター ポット・リティ

日本訪問の折には、大変お世話になりありがとうございました。たくさんの会員やスタッフの方々にお会い出来て大変嬉しく思いました。また、実施された会合も素晴らしく、みなさんとの話し合いは興味深く有意義なものでした。

今回の会合で、私が一番嬉しくまた力強く感じたのは、みなさんがアジア未来学校とポンロック・タマイの運営について、私が考えていたより遥かに真剣に取りくんで下さっているということです。これを知って、私もいままで以上に熱心に学校運営に携わらなければならないと覚悟を新たにしました。

またシャンティ国際ボランティア会の高橋さんが話された、同会のカンボジアにおける図書館活動(「読み聞かせ」を通じ、子どもを絵本好きにさせる活動)には触発される所が多く、アジア未来学校でも小さな図書館の開設や、現在週一回実施している「読み聞かせ」の回数拡大を、先生たちと相談して取り入れていきたいと思いました。識字教育課程を終了した子どもたちが転入する隣村のルセイサン小学校は、カンボジアの一般の公立小学校同様、必ずしも教育の質が高いとは言えません。また、二部授業の午前の部に(あるいは午後の部に)ルセイサン小学校の授業に出た子の中には、午後(午前)はアジア未来学校に来て授業を聴いている子もいます。このような状況なので、図書館の開設や「読み聞かせ」の強化は必ず良い結果を生むと思います。

帰国後、張り切ってアンロンコン・タマイ村を訪問した所、非常に困った事態が起こっていました。10月12日付けで、アジア未来学校の午前のクラスの生徒28名全員が、識字教育課程を終了していないのにルセイサン小学校に移っていたのです。これは、アンロンコン・タマイ村に最近参入したイタリアのNGO、CEFAの活動の影響です。この団体は公立小学校に行っていない子どもを学校に行かせる目的で、特定の子どもを選んで、学校に行くたびに毎日少しずつお金をわたすというやり方をするのです。親たちは小学校に行けば誰でもお金を貰えると間違っ受けて止め転入を決めたのです。この結果アジア未来学校には、午後の2クラスの7~8名しか生徒がいなくなりました。

この事態に対し、私は安田さんと相談して、当面11月末まではルセイサン小学校に行った子どもたちの動向を見守ろうと決めました。私たちもアジア未来学校の先生たちも、お金が貰えない子どもたちは、またこちらに戻って来ると予測しています。また、もし戻って来なくても、子どもたちは学校に行っているわけですから、それはそれで悪くないことだとも考えています。アジア未来学校の方は、午後のクラスは従来通り授業を続け、午前のクラスは子どもたちが帰って来る日に備えて、先生二人には今まで通り学校に来て貰うことにしました。

私と安田さんは、今後私たちが新たに何をやるべきかも、村の要望を調べながら検討しようとしています。以上の状況と当面の進め方について、皆さんのご理解とご協力をお願いしたいと思います。(原文英語 訳大澤)(注記 上記のアジア未来学校の状況報告とリティ氏の方針について、日本事務局は急遽検討を行い、全面的に支持するという結論に達し、10月20日にその旨を伝えました。)

日本支部を訪ねて

韓国支部 イ・ジェウ

4年ぶりに訪ねた日本の風景は以前と変わりありませんでした。記憶をたぐって京成電車に乗り上野駅に到着すると、懐かしい田村洋平くんが迎えに来てくれていました。洋平くん連れられていった店にはとてもたくさんの日韓アジア基金の人たちがいて驚きました。たくさんの人たちに初めて挨拶し、話しているうちに時間はあっという間に過ぎて、別れるときになりました。わたしは千葉さんの家にホームステイするので、千葉さんについて電車に乗りました。千葉さんの家では、韓国人のご主人が喜んで迎えて下さり、おかげで安らかに眠ることができました。

翌日は2時間ほど電車に乗って、ABKに到着しました。そこにはゆうべ会った嬉しい顔がまたあって、総会の準備でみな忙しくしていました。わたしは会議で英語で話さなくてはいけないと思って緊張していましたが、幸いにも通訳をして下さる方がいらっしゃいました。日本支部スタッフの菊池礼乃さんのお母さんが会議の間ずっと通訳をして下さったので、わたしは何の困難もなく会議に参加することができました。NPO法人になったからか、形式的な面でも形が整い、体系的だという感じを受けました。そしてこのようにするために、シニアメンバーがどれほど熱心に努力されたかを知ることができました。また、シニアメンバーたちの社会での経験が、活動の体系化に多くの役割を果たしたことを感じました。韓国でもこんな経験豊かなシニアがいればどんなにいいかと、また考えてしまいました。

ジュニアメンバーのなかで、司会をされた細谷くんもまた、若いに似合わず、スムーズな会議進行を見せてくれました。とくに、特定の主題に関して特定の人を指名して意見を求めたのは、よい進行方法だと思いました。韓国では会議をするとき、案件について意見がある人だけが話していて、だれからも話を引き出さなくて進行が難しいことが多いのです。このような会議方法を韓国の会議にも導入したいと思いました。

総会に外部の方を呼んで、講演を聴き、討論することもまたとてもよい考えだと思いました。これらの多くのことを韓国にも適用することができれば、いいのにと感じました。

また日本事務局も多くの困難を重ねながらろうじてカンボジアを援助しているという事実には驚きました。わたしたち韓国事務局ももっと援助しなければならないのに、それができていないことが残念です。

初めてお会いしたリティさんは、会った瞬間から信じられる人だと感じました。話をしてみて、長い時間見ていて、いっそう信頼できる誠実な人だと感じました。会う前には確信できなかった多くのことが、直接会って、話をして、安心できたようです。これからリティさんがカンボジアの現地で、多くの役割を果たして下さることを切に願っています。

細谷くんが提案したジュニアメンバーのソウル訪問も実現すればいいと思います。多くの方のご親切に感謝し、また日本を訪ねてよい知らせをお伝えできることを願っています。

(原文韓国語 訳波多野)

アジア文化会館主催 アジア文化会館オータムフェスティバルに参加

10月22日 文京グリーンコート桜の広場

当基金は今年で3回目のABKフェスティバル参加となりました。フェスティバルは、今年もアジア・南米各国の留学生によるおいしい手料理の販売や民族舞踊の披露など、国際色豊かにおこなわれました。フェスティバル開始のときは悪天候に悩まされましたが、それにもかかわらず多くの方がたにご来場いただき、当基金のブースにも立ち寄っていただきました。当基金は、カンボジアの子どもたちの写真や活動状況の展示・説明、パンフレット・ニュースレターの配付、そして韓国のお茶（柚子茶・梅茶・ナツメ茶）の無料サービスをおこないました。また、韓国支部のイ・ヨロさん（日本に留学中）も友人のホさんを入れてスタッフとして参加し、日韓が協力するという当基金らしい活動をおこなうことができました。今後もこのようなイベントに積極的に参加し、多くの方々に当基金の活動の趣旨や内容を理解していただきたいと思ひます。

注：アジア文化会館（通称ABK）は東京都文京区にある留学生宿舎で、私たちの事務所を置かせて頂いている所でもあります。（渡部）



グローバルフェスタ JAPAN2005



アジア文化会館オータムフェスティバル

グローバルフェスタ JAPAN2005 に参加

10月1日、2日の2日間、日比谷公園で行われたグローバルフェスタ2005に出展しました。これは途上国を支援している団体が数多く集まり、国際協力への入り口として、「知るから行動する」きっかけを提供するイベントです。天気は快晴。気温は30℃近くまで上がる暑い中、本当に多くの方が足を運んでくださいました。それほど、このグローバルフェスタを楽しみにしていたのだろうと思ひます。

このイベントに参加している人たちの共通の願ひは、世界中のみんなが幸せな生活を送ること。もちろん自分もそう願ひています。そういう人がこんなにもたくさんいるんだと思ひると、とても嬉しくなりました。まだあまり国際協力に関心

を持っていない方もいたと思いますが、多くの団体が途上国を支援しているということが分かっただけで、このグローバルフェスタはよかったと言えるのではないのでしょうか。ひとりでも多く、日本のことだけでなく世界全体に目を向けるようになって欲しいと私は思っています。

最後に、暑い中当基金のお話に耳を傾けてくださった方々、本当にありがとうございました。(中谷)

スタッフ紹介

細谷恭一郎



8月24日に開業した高速鉄道、つくばエクスプレスにはもう乗りましたか？今日韓アジア基金スタッフの中で最も旬な鉄道です(たぶん)。

というわけで改めましてこんにちは！国立大学法人筑波大学第一学群社会学類1年次、細谷恭一郎と申します。2002年6月以来、日韓アジア基金に携わってきました。途中2年ほど、大学受験のために活動を休止していましたが、今春晴れてカムバックしました。大学では社会科学全般を中心に幅広く学んでいますが、現在は主に安全保障について勉強中です。よろしくお祈りします。

僕は高校生の頃から韓国の友人と過去の歴史について議論する機会に恵まれました。でも話せば話すほど、虚しい気分になるんですね。歴史って結局、ひとつの事例をとっても必ず良い面・悪い面の二面があると思うんです。

僕にとって日韓アジア基金の理念はとても魅力的です。それは「協働」により、過去のみならず日韓が歩み寄ることができるという点においてです。しかもこの協力関係を他の地域にまで拡大していく可能性を秘めています。

傲慢にも卑屈にもならず、アジアの人間が笑顔で世界の未来について語り合える時代にしたいなあ。これが僕の行動の原動力になっています。理想を見失わず、現実から逃げず、これからも頑張るぞ！

<フリーマーケットのお願い> ジュニアスタッフ有志

今回のフリーマーケットは、12月10日に予定しております。下記のものをご希望でしたら、ご協力をお願いいたします。

未使用品：タオルセット・シーツ・カバー類

使用済みも可：冬物衣類・かばん・アクセサリ

上記のもの以外は、出店規則に触れる恐れがございますので、ご遠慮させていただきます。ご送付くださる方は、「フリーマーケット商品」と明記の上、以下のあて先までお送りください。期限は11月18日(金)までとさせていただきます。

※ 誠に申し訳ございませんが、送料はご負担いただきたく存じます。

〒156-0055 世田谷区船橋1-3-17 井内和夫

電話 03-3429-8897

(「韓国の暮らしあれこれ」は紙面の都合上、休ませていただきました。)

私は JHP（学校をつくる会）という NGO のワークキャンプに参加し、7月26日から約三週間、カンボジアの小学校でブランコをつくってきた。今「カンボジア」という言葉を聞いてパッと頭に浮かぶのは子どもたちの顔。知らない日本人がぞろぞろと来た時の不安そうな顔、ちょっと慣れてきて初めて話しかけた時のはにかんだ顔、私たちのピアノの演奏やソーラン節を見ている時のポカーンとした顔、初めてのブランコが恐くて今にも泣き出しそうな顔。カンボジアにいる間いろんな子どもたちの顔を見たが、作業中とかふとしたときに子どもを見るといつも笑顔だった気がする。一緒に作業している時も、ブランコに慣れて得意げにこいでいる時も、最後のお別れの時も。私の周りにはいつも笑顔があふれていた。今では、「カンボジア」という言葉を見たり聞いたりするだけで心があったかくなる。



クメール語を教えてくれた子どもと

カンボジアに行って自分がはっきり変わったと言い切れるのは『学校』や『勉強』に対する姿勢だ。小学校を訪問した時、向こうの子どもたちは目がキラキラしていて、本当に勉強が好きなんだということが分かった。チョンボック小学校で作業していた時は、その地域の各家からヤシの実を五個ずつ頂き、親からもありがとうという気持ちが伝わってきた。私は、今まで一回くらい授業を休んでも単位にはひびかないし、その分のノートを借りれば問題無いと、友達と遊んだり寝ていたりすることがあった。しかしカンボジアの子どもたちの顔を思い出したら、もうそんなことはできない。自分がどれだけ勉強や学校ってものから顔を背けていて、どれだけ自分の居心地のいい場所に逃げていたか、本当にイヤになるくらい実感した。だからこれからは何にでも興味を持って、授業の一時間ずつを大事にしたいと思っている。これだけいい環境で、学ぶ機会も、学ぶ場所も満足にあるのだから。

日本に帰ってきて何かかなり違和感があった。少し経って気づいた。笑顔が少ない。日本にはモノがいっぱいあって、足りなければどこかで買えるし、生活に不便なところはあまり無い。しかし全然幸せそうではない。確かに言えることは、向こうで会った人達はみんな幸せそうだったということ。生きてるって感じがした。こっちにいるとあまり見えない。本当に幸せってなんだろう……。でもモノじゃないということのはっきり分かった。

「一ヶ月」はとても短い。こんな短い一ヶ月は今までなかった。自分の中では大きくて、ギュッと詰まっていて、ずっと大事にしたい宝物。一緒に汗を流した仲間も、カンボジアで出会った人達も、子どもたちもみんな宝物。でも自分の中にしまっておかないで、みんなに分けてあげたいな。今、この一ヶ月全てに心からありがとうと言いたい。

平成16年度日韓アジア基金・日本 収支報告書(任意団体、法人合算)
(平成16年7月1日～平成17年6月30日)

単位 円

収入の部		支出の部		
費目	金額	費目	金額	
前期繰越	897,975	事業費	カンホニアプロジェクト	2,602,435
会費	848,000		広報費	157,114
寄付	1,339,699		行事費	68,054
雑収入	52,403		小計	2,827,603
		管理費	教育研究費	36,300
			会議費	22,900
			消耗品費	13,555
			雑費	8,078
			租税公課	3,000
			図書資料費	2,800
			通信費	2,520
			備品	2,000
			小計	91,153
			合計	2,918,756
		次期繰越	219,321	
収入合計	3,138,077	支出合計	3,138,077	

カンホニアプロジェクトには派遣員国内手当45万円を含む

平成16年度アジア未来学校収支報告書
(平成16年7月1日～平成17年6月30日)

単位ドル

収入の部		支出の部		
費目	金額	費目	金額	
前期繰越	619	経常費	人件費	9,087
日本支部	19,843		地代家賃	3,120
韓国支部	1,565		自家用車費	1,410
寄付	100		通信費	1,324
雑収入	115		光熱費	406
			租税公課	392
			図書資料費	389
			雑費	269
			消耗品費	162
			会議費	23
			修繕費	20
			運搬費	15
			旅費交通費	9
			小計	16,626
		臨時費	カンホニア小学校補修	2,748
			行事費	736
			小計	3,483
		次期繰越	2,133	
収入合計	22,242	支出合計	22,242	

平均為替レート:108円/\$ (送金手数料を含む)

平成17年度日韓アジア基金・日本予算書
(平成17年7月1日～平成18年6月30日)

単位 円

収入の部		支出の部		
費目	金額	費目	金額	
前期繰越	219,321	事業費	カンホニアプロジェクト	1,300,000
会費	677,000		行事費	200,000
寄付金	760,000		広報費	120,000
雑収入	50,000		小計	1,620,000
		管理費	会議費	29,000
			通信運搬費	10,000
			消耗品費	10,000
			図書資料費	10,000
			教育研究費	20,000
			小計	79,000
		当期繰越	7,321	
収入合計	1,706,321	支出合計	1,706,321	

行事費にはリティ氏イジェウ氏日本招待費用を含む
広報費は主にニュースレターの発行費用である

平成17年度アジア未来学校収支予算
(平成17年7月1日～平成18年6月30日)

単位ドル

収入の部		支出の部		
費目	金額	費目	金額	
前年度繰越	2,133	経常費	人件費	3,900
日本支部	11,000		地代家賃	2,400
韓国支部	1,000		自家用車費	1,400
			通信費	1,300
			光熱費	400
			租税公課	50
			図書資料費	400
			雑費	270
			消耗品費	160
			会議費	20
			修繕費	100
			運搬費	15
			旅費交通費	10
			小計	10,425
		次年度繰越	3,708	
収入合計	14,133	支出合計	14,133	

予測為替レート:115円/\$ (送金手数料を含む)

平成16年度日韓アジア基金年次総会開催(平成16年7月～平成17年6月)

平成17年9月18日(日)、東京文京区のアジア文化会館にて表記を開催、無事終了した。本総会は、活動会員総数30名中、出席者14名、事前投票者13名で、定款に定める1/2以上を達成し成立している。

主な議題は平成16年度事業報告及び決算報告と、平成17年度事業計画及び予算であり、いずれも事務局原案通り承認された。

なお本年度は、年度途中の平成17年3月1日に当基金が特定非営利活動法人になったため、議事は通年分と、法人格取得以降の期間に分けて報告、審議した。

05年7月～9月に会費・ご寄付を下さった方(敬称略・別枠以外五十音順)

荒川 雄彦	大澤 龍	諏訪 和之	中村 早苗	古川 起與子	満井 啓二	若宮 康夫
井戸端 裕子	川崎 由紀子	田中 慶子	並木 陽子	細谷 恭一郎	三藤 雅道	渡部 友理恵
潮田 耕一	川辺 寛子	千葉 眞衣子	波多野 淑子	前島 盛一	村松 悦子	渡部 澄江
内田 勝之	菊池 貞子	弟子丸 佳子	樋口 晴太郎	前田 了子	森 健造	
江本 哲也	栗田 瑞枝	中島 智代	樋口 督水	松田 明美	柳田 文子	
遠藤 保弘	鋤柄 慎吾	中田 美智子	平田 典子	三門 房子	矢吹 久楽子	

韓国支部(送金代行) ボランティア 野菊の会

フリーマーケットの商品をご提供下さった方(五十音順・10月20日現在)

大坪 玲子	神保 智子	前田 了子	松田 明美	山崎 善江	吉村 悦子	渡辺 京子
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
法人会員:年会費1口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便局振替口座番号>
振込口座 00180-2-25153
日韓アジア基金

活動会員:活動に積極的に参加いただける方

賛助会員:定期的にご支援いただける方

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けいたします。

なお、ご希望の方には E-メールでもお送り致しますので、下記メールアドレスまでご一報下さい。また、下記ホームページアドレスでカラーでご覧になることもできます。

<お問合せ先>

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
常駐職員がおりませんので、訪問される時は事前にご連絡をお願いします。

Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)

E-メール:iloveasia@ml-b7.infoseek.co.jp HP: http://www.iloveasiafund.com

このメールアドレスは当会のメーリングリストのもので、お名前、メールアドレス以外の個人情報記載はご注意ください。